

今号の作業

シリンダーヘッドカバーに ブリーザーカバーを取り付ける



今号では、エンジンのシリンダーヘッドカバー中央部にブリーザーカバーを取り付ける。ダイキャスト製パーツをビスで固定する際のポイントも紹介しているので、今後のためにしっかりと覚えておこう。また、組み立て済みのフロントホイールも提供される。

今号のパーツ



- ①フロントホイール×1
- ②シリンダーヘッドカバー×1
- ③ブリーザーカバー上×1
- ④ブリーザーカバー下×1
- ⑤ビス(Aタイプ)×3
(※1本は予備)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。

※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番) ※今号に付属
- ※グリップ部が細いタイプと太いタイプの2種類があると便利。

あると便利なもの

- ・プラスチックモデル用塗料の薄め液(ラッカー系)、もしくはマニキュアの除光液
- ・綿棒、ティッシュペーパー

STEP
1



組み立て済みで提供される①フロントホイールの各部をチェックする。中心部のホイールハブがしっかりと固定されていればOK。

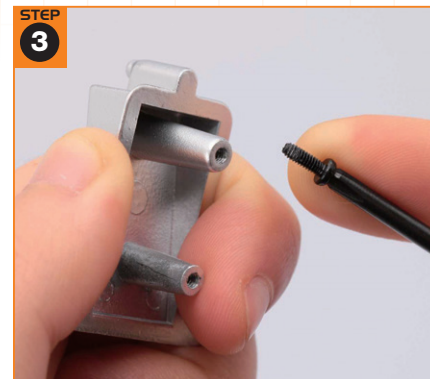
※数本のスポークにガタ(パーツがしっかりと固定されておらず、動かすとガタガタしてしまうこと)が生じている場合もあるが、ほかのスポークによる張力でホイールハブが固定されていれば問題はない。

STEP
2

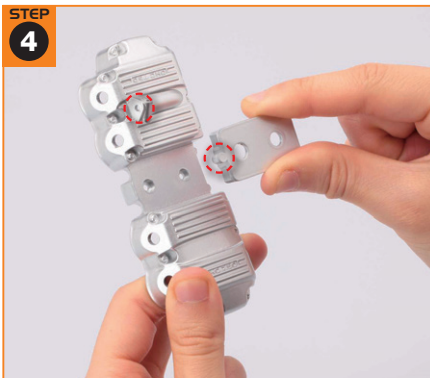


+(プラス)ドライバー(1番)を使い、③ブリーザーカバー上の裏側にある2本のポストのビス穴へ、⑤ビス(Aタイプ)をポストに対してまっすぐにねじ込む。これはパーツのネジ穴内側に、ビスを組み付けるための「ネジ切り(=「タップ」という)」を行う作業。なお、この作業はドライバーを回す力が必要なので「グリップ部の太いドライバー」の方が楽に作業を行える。ただし、力が加わりすぎてビスの「アタマ(ドライバーの先端を受ける溝がある部分)」を傷める恐れもあるので十分に注意しよう。

STEP
3



ビスの長さの2/3程度までねじ込んだら、ドライバーを反対に回してビスを抜き取る。ネジ穴の中とビス表面には「金属粉」が付着しているので、それをきれいに落としておく。これで準備は完了。



②シリンダーヘッドカバーに④ブリーザーカバー下を取り付ける。シリンダーヘッドカバーの上部表面にある三角形の突起部分を上にして持ったとき、ブリーザーカバー下の側面突起が左側になる。



続いて、③ブリーザーカバー上を取り付ける。側面の突起部分を左側にして持ち、裏面のポストを④ブリーザーカバー下の穴に差し込む。



シリンダーヘッドカバーの中央には2カ所のへこみがあり、そこにブリーザーカバー上のポストがはまり込む。各パーツがピッタリと重なっているかを確認しよう。



差し込んだブリーザーカバー上下が落ちないように指先で押さえたまま、シリンダーヘッドカバーを裏返す。中央のネジ穴に⑤ビス(Aタイプ)をセットし、+(プラス)ドライバー(1番)でねじ込む。



ブリーザーカバーが落ちない程度までビスを締め込んだら、もう片側のネジ穴にも⑤ビス(Aタイプ)をセットし、+(プラス)ドライバー(1番)でねじ込む。両方のビスを交互に、同程度ずつ締め込むようにするのがポイント。



これで今回の作業は完了。本シリーズで組み立てるCB750FOUR KOのホイールは、初期型にのみ採用された“丸リム”を再現しているのが特徴。次回の作業まで、破損しないよう大切に保管しておこう。

× **ホイール表面が汚れていた場合** ×

ホイールの表面に白っぽい汚れが付着して気になる場合は、「プラスチックモデル用塗料の薄め液(ラッカー系)」、もしくは「マニキュアの除光液」を綿棒で付け、ティッシュペーパーで拭き取れば落とすことができる。なお、この作業を行うときには部屋の換気と火の気に注意しよう。



綿棒を使い、プラスチックモデル用塗料の薄め液を汚れた部分に付ける。



ティッシュペーパーを使って汚れを拭き取る。必ず部屋の換気を行うこと。